

「インタトルク」マイクロねじ

ねじ締め自動化、精密分野へ

ハイオス

(株)ハイオス(東京都墨田区、戸津勝社長)は、ロボットによるねじ締め自動化システムに最適な特殊リセスねじ「インタトルク」のマイクロねじをシリーズに加えた。順次、製造販売を進めて精密機器分野での採用拡大を狙う。

性能をそのままに細径化

インタトルクはカウキを防止する(ガイド&ロック機能)凸部を差し込むガイドを持つファスナー。今回、インタトルクを呼び替える、ビット先端部をねじ中心部に確実に誘導して、さらには0.1mmのマイクロねじは、イ



インタトルクのマイクロねじ

サロビュラは実例が無く、試作品レベルでも無いという。ねじ締め自動化と親和性の高いインタトルクを、集こもり需要なIoT化が進み市場が拡大している精密機器分野へ採用を広げたい。

付エアーを防ぐ機能をほじめ、回転方向のみで締め付けることができるので、推力を必要とせずロボットの小型化が可能とされた。さらにビットの消耗が圧倒的に少ない。一定の回数に達したら交換するという数値制御が可能。さらに締結データをリアルタイムに送信する電動ドライバ「熟練工」(BLG-BC2シリーズ)と組み合わせ



嵌合イメージ

インタトルク

ることで、総合的に「ねじ締めデジタル化」を実現できるのも大きな特長となっている。すでにスマートフォンの車載機器、パソコン分野で採用が始まっている。ねじ締め自動化により精密機器メーカーの工場ラインでのDX化を加速させていく。

また同社は9月にウェブサイト(<https://hios.com>)をリニューアルした。コロナ禍で営業の人的交流が減少している中でウェブコンテンツを充実させて営業強化を図る。自動化ニーズに注目して動画などコンテンツを強化した。同社では、ねじ締め自動化システムの販売拡大を狙い、ロボッ

トメーカー協力して展示会に出展するなど営業の多角化を進めてきた。た企業も同席して開催することで、ねじ・工具だり、商材の規模を拡大していく。

先である工具・ねじ商社向けは、こうして開業も同席して開催することで、ねじ・工具だり、商材の規模を拡大していく。